

# 中学 1 年 1 組 社会科学学習指導案

指導者 岡田 昭彦

## 【本時で目指す子どもの姿】

モノカルチャー経済下と脱モノカルチャー経済下でのアフリカの人々の生活を比較, 追求し, アフリカの脆弱な経済基盤の理由を明らかにすることで, アフリカ州の貧困問題の原因を考えようとする姿。

## 【具体的な手立て】

現在もモノカルチャー経済に依存している国のグループとモノカルチャー経済から脱却した国のグループが, 「なぜ, モノカルチャー経済を変えたか, 変えなかったか」を調べた結果を根拠として, 「アフリカ州でくらす人々は, 今後モノカルチャー経済を変えるべきか 変えないべきか」話し合う。

### 1 単元名 「モノカルチャー経済 変えるのか 変えないのか ～アフリカ州～」

### 2 単元のねらい

モノカルチャー経済による貧困問題が, アフリカでくらす人々の生活にどのような影響を与えているかを追求することで, アフリカの地域的特色を理解する。その上で日本の対アフリカ貿易や支援の実態を知ること, アフリカと我が国の関係の理解を深めるとともに, アフリカの国々の貧困問題解決への方策を考える。

### 3 授業の構想

(1) 生徒は, 「世界各地の人々の生活と環境」の単元において, 発言やワークシートでアフリカ州に対して, 次のようなイメージをもっていた。強い日射しをあびて, ゾウやキリン, ライオンが行き交う野生動物の楽園であったり, 土地は広大なサハラ砂漠だけであった。他には, 内戦, 飢餓, 貧困, 差別, 病気, さらには「部族がいて上半身は裸でのんびりしている」「農業技術を学ぶ気がないので, 飢餓に苦しんでいる」「子供の数が多いので食糧が不足している」という生徒もいた。小学校の学習でも扱っていない地域であり, 基盤となる知識も少ないこともあるが, このように生徒のアフリカのイメージが大変に偏っていること, ネガティブなものが多いこと, さらには断片的な情報にもとづく歪んだ意識を抱いていることがわかった。

確かに, アフリカ州でくらす人々は, 貧困, 人口爆発, 食糧不足, 民族紛争といった多くの問題に直面している。そこで, 本単元の学習を通して生徒たちがアフリカの現状を知り, 貧困問題の因果関係を追求する姿や, 日本の対アフリカ貿易やアフリカに行っている支援の実態を知り, 我が国への理解を深めようとする姿を期待する。また, 本学習が自分のくらしや生き方の見識を広げ深めるものであってほしいと願っている。

(2) 本単元は, 学習指導要領の内容 (1) 世界の様々な地域 ウ世界の諸地域 (ウ) アフリカを“モノカルチャー経済下の人々の生活”という主題を設定し全5時間で構成したものである。

現在アフリカ州ではAU（アフリカ連合）も立ち上げ、国連加盟国は全体の1/4を占めている。かつスマートフォンで使用するレアメタル鉱山やカカオ・コーヒーのプランテーション農業など、日本が必要とする資源の輸出国であり、日本企業が積極的に企業進出を始めている。日本にとって関わりの深い地域である。また、アフリカにクラス人々は貧困に苦しんでいる。これは、いくつかの一次産品の貿易に頼っているモノカルチャー経済が原因の1つであると考えられる。そこで“アフリカ州でクラス人々は、今後モノカルチャー経済を変えるべきか、変えないべきか”という単元の問いを立て、実際にモノカルチャー経済から脱却した国、脱却できない国の生活・文化、歴史的背景、主要生産品、主要国の経済状況と生産物、貿易の様子、主要生産品を調べた結果を根拠にしてこれからのアフリカ州の在り方を話し合い、追求する。

本時は、調べた結果を根拠にし、アフリカの脆弱な経済基盤の背景を探る場面である。変えられた国の共通点、変えられなかった国の共通点や比較してわかったことから、モノカルチャー経済を「変える、変えない」というアフリカの人々の判断は、実際には旧宗主国など先進国との結び付きのもと「変えられる、変えられない」という判断であるということに気づいてほしい。

本単元の最後では、日本とアフリカとの貿易や、日本のアフリカへの支援の実態から、日本とアフリカの経済関係を考える。日本もアフリカのモノカルチャー経済に大きな影響を与えている国の1つであることを知り、「変える、変えない」という判断は、私たちの判断でもあることに気づくことで、アフリカの地域的特色を理解することにつながると考え、本単元を設定した。

#### 4 展開計画（全5時間 本時4/5）

次	時	主な学習と具体的な学習・内容	子どもの姿
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本にあるモロッコ・モーリタニア産のタコ、ガーナ産のカカオチョコ、ケニア産のお茶の実物を見て、日本のたこ焼き、チョコレート、お茶などの原材料を、輸入に1ヶ月～2ヶ月かかる遠いアフリカから、なぜ輸入しているのか考える。</li> <li>アフリカでクラス人々は、同じ原材料を大量生産して安く売る方法で、豊かな生活をしているかを考える。</li> <li>それはアフリカの人々が望んでいることなのか望んでいないことなのか、写真を見ながら予想し、みんなで“単元の問い”をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安いから。・良いものものだから。・農業がないから。・貧困から助けるため（ボランティア）。</li> <li>他の地域ではとれないから。・他の地域よりすごく安いから企業の利益がいっぱいであるから。・飛行機があるから。</li> <li>豊かな生活ができていないのに、なぜ同じ原材料を大量生産して安く売っているのか疑問をもつ。</li> <li>モノカルチャー経済は貧困と関係があるのか疑問をもつ。</li> </ul>
アフリカ州でクラス人々は、今後モノカルチャー経済を変えるべきか、変えないべきか			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでアフリカでモノカルチャー経済を変えた国、変えていない国を、単元の問いを判断する材料として調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>判断材料がないとどちらがいいかわからない。判断するために、調べたい。</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>モノカルチャー経済を変えた国である南アフリカ、チュニジア、モロッコをグループAとし、変えなかった国であるガーナ、ケニア、ザンビアをグループBとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モノカルチャー経済から脱した国と脱しない国のグループを作る。</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>変えた国と変えなかった国の理由について、以下の①～⑥の面で調べる。①～⑥の視点から、なにを調べると、ど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>脱した国と脱しない国について「なぜ脱したのか、なぜ脱しないのか」の理由を①～⑥の視点で調べ、共通点をあげ。比較し、モノカ</li> </ul>

	<p>のようなことがわかるか予想を立て、資料からモノカルチャー経済のメリットデメリットを調べる。①歴史的背景、②主要生産品、③主要国の経済状況と生産物、④貿易の様子、⑤主要生産品とアフリカに暮らす人々の生活との関連、⑥旧宗主国など先進国との結び付き。</p> <p>・調べ方は、①を1班、②を2班といったように、1班で1つの視点とする。</p> <p>・共通点や比較してわかったモノカルチャー経済のメリットデメリットをまとめ（調べたことを視覚化）、発表する。</p>	<p>ルチャー経済のメリット・デメリットを考える。</p> <p>①植民地で宗主国の奴隷となった。③お金がないと工場は建てられないことが分かる⑥自分の国だけで決められないと分かる。</p> <p>・みんなにわかりやすいように、一覧表にしてまとめる。</p>	
4 本時	<p>・単元の問いである「アフリカで暮らす人々は、今後モノカルチャー経済を変えるべきか、変えないべきか」の解を前時までに学習したことを根拠に考え、グループ内で発表し、学び合う（思考の視覚化）。</p> <p>・モノカルチャー経済を「変える、変えない」というアフリカの人々の判断は、実際には旧宗主国など先進国との結び付きのもと「変えられる、変えられない」という判断であるということに気づく。</p>	<p>・“単元の問い”の解を考えることで、アフリカ州の地域的特色を理解する。</p> <p>・一度出した解を、もう一度自分で、今までの資料をもとに、単元の問いの振り返りをする。</p>	
2	5	<p>・アフリカ州が貧困から脱出するには、</p> <p>・第一次産品から加工品を輸出するために、どうしたらよいか。これを日本の歴史的から考える。</p> <p>・フェアトレード等の諸外国の支援や日本のチョコレート商品の実物と価格を見て、自分の生活につなげる。</p>	<p>・日本（先進各国）のアフリカ州への支援を知り、日本とアフリカの関係を理解する。</p> <p>・自分の生活の中にアフリカ州の産物があることを再認識する。</p>

## 5 本時の学習

### (1) ねらい

モノカルチャー経済下と脱モノカルチャー経済下でのアフリカの人々の生活を比較、追求し、アフリカ州の貧困問題の原因を、旧宗主国や先進国との結び付きによる脆弱な経済基盤にあることを自分の言葉で表現し、アフリカ州の地域的特色を理解する。

### (2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
<p>単元の問い：アフリカ州で暮らす人々は、今後モノカルチャー経済を変えるべきか、変えないべきか</p>	
<p>1. 前時までにまとめたものを提示し、モノカルチャー経済のメリットデメリットを発表する。</p>	<p>・前々時・前時に使用した①～⑥の資料とモノカルチャー経済のメリットデメリット、それを比較してわかったことをまとめ一覧表を掲示することで、いつでも単元の問いを解く根拠になるようにする。</p>

2. 南アフリカ、チュニジア、モロッコのグループAとガーナ、ケニア、ザンビアのグループBについて、グループの共通点やモノカルチャー経済のO Oメリットデメリットを根拠に、これからのアフリカ州はどうあるべきか、「変えるべきか、変えないべきか」という自分の考えを持つ。

3. 単元の課題である「アフリカにくらす人々は、これからモノカルチャー経済を変えるべきか、変えないべきか」についてこれまで調べたことを根拠に自分の考えを発表し、他者の考えに学び、自分の考えを広げ深める。

4. 本当に、アフリカ州でくらす人々はモノカルチャー経済を「変える」「変えない」の視点で行動できるのか、今までの資料で単元の問いを振り返り、再度考える。

5. 次時はアメリカ州がモノカルチャー経済を脱却することは、いわゆる先進国にどのような影響を与えるかを考えることを告げる。

・今までの知識や技術を根拠②して、自分の立場を明らかにする。

・自分の立場「変えるべきか、変えないべきか」について、①～⑥どうしを関連付けて根拠を作る。グループ内で発表する時は思考の視覚化を工夫する。

◆「変える」(例)歴史的に植民地だったため、今でも宗主国に安く原材料を提供しているため、利益が少なく、国民全体の豊かさにならないから。

◆「変えない」(例)原油は安定した需要量があるので、このまま原油の供給をした方が工業化して倒産などするよりよい。旧宗主国や先進国が買ってくれているから。

・今までの資料の中で思考に必要な資料を指定したり、生徒の考えにゆさぶりをかけ、実際には旧宗主国や先進国との結び付きから、アフリカにくらす人々が「変える、変えない」のではなく、「変えられる、変えられない」という判断であることに気付く。

— 評価の観点(思考・判断・表現) —

モノカルチャー経済下と脱モノカルチャー経済下でのアフリカの人々の生活を比較、追求し、アフリカの脆弱な経済基盤は、旧宗主国など先進国との結び付きが関係していることを、貧困問題の原因として自分の言葉で表現できたか。

【評価方法：発言・観察・ワークシート】